

技術報告①

コンサルタンツ部門

令和3年度「調査・測量・設計業務の 品質確保等に関する提案（後期分）」について

コンサルタンツ部門では、円滑な業務の実施及び品質の高い成果の提供を行うため、会員企業の調査結果をもとに提案要望事項をとりまとめ、年2回、農林水産省農村振興局施工企画調整室と意見交換会を開催している。

本稿は、2022（令和4）年7月12日（火）に開催した、意見交換会の状況について報告するものである。

日時：2022（令和4）年7月12日（火）
15：00～17：00

場所：農業土木会館 2階会議室 A

出席者

（農林水産省施工企画調整室）

土屋 恒久 室長

今 康治 積算企画係長

（コンサルタンツ部門幹事会）

松浦 正一 NTC コンサルタンツ（株）

大久保拓也 サンスイコンサルタンツ（株）

水小田英俊（株）三祐コンサルタンツ

青木 淳仁（株）ジルコ

上野 裕士 内外エンジニアリング（株）

藤田 茂（株）日本水工コンサルタンツ

伊藤 雄一 若鈴コンサルタンツ（株）

（アドバイザー）

河津 宏志（株）ジルコ

（農業土木事業協会）

山田 耕士 事務局長

野村 栄作 企画部長



【議事】

コンサルタンツ部門では、入札・契約から業務実施、完了に至る一連のプロセスにおける課題を、会員へのアンケート調査（「農業農村整備の業務実施に関するアンケート調査」）を通じて洗い出し、コンサルタンツ部門幹事会により検討を加えたうえで、以下の改善要望を取りまとめた。

なお、今回の提案は、同調査のうち2022（令和4）年3月末をもって集めた意見項目を年度前期分として取りまとめたものである。

1 提案要望事項（農業土木事業協会から）**(1) 設計変更等に対する適切な措置について**

業務の実態に合わせて工期・金額の適切な契約変更を行うようご指導をお願いします。

(2) 業務確認会議の開催について

業務確認会議は成果の品質確保に有効であるが、発注者が認識している課題の情報を整理するなど、十分な準備を行ってから開催するようお願いする。

(3) 照査報告の確実な実施について

照査報告の様式が定められていない工種について、様式の拡充をお願いします。また、様式が作成されていない状況での照査報告書の作成に要する歩掛や、照査回数が変更された場合等にかかる追加の歩掛については、作業実態に合わせて適切に設定するようお願いする。

(4) 発注者・設計者・施工者による工事円滑化会議への参加について

工事円滑化会議は品質確保対策に有効ではあるが、資料作成経費や交通費等、工事円滑化会議への参加に際して必要となる歩掛を適切に設定するようお願いする。

(5) 業務環境の改善について

業務実施中にはウィークリースタンスで定められている事項を遵守するよう、ご指導をお願いします。

(6) 情報共有システムに関する課題について

情報共有システムの使用方法について全国的

に統一をお願いする。また紙媒体の使用を控え、個人情報の取扱いについても見直しをお願いする。

(7) Web会議活用に当たっての課題について

円滑に会議が行えるよう、発注者側の通信環境の整備をお願いする。また、Web会議を効率的に進める方法の展開をお願いする。

2 提案に対する回答（農林水産省から）**(1) について**

品確法の趣旨を踏まえ、工期・金額の適切な契約変更を行うよう指導しているが浸透していない状況があるのは残念である。現場の事業所等をしっかり指導したい。



（左）土屋 施工企画調整室長（右）今 積算企画係長

(2) について

可能な限り準備してから会議に臨むよう指導していく。

(3) について

様式が定められていない照査報告書様式の制定に関しては、昨年度より検討を始めている。また、標準歩掛がない場合や照査回数を変更する場合等については、見積徴取などにより適切に金額を計上できるよう指導していく。

(4) について

良質構造物設計施工技術検討業務に準じて、資料作成経費や交通費等を適切に計上するよう指導していく。

(5) について

アンケート結果から昨年度より改善の傾向がみられるが、問題が生じないように引き続き指導していきたい。

(6) について

システムの適切な使用については引き続き指導していく。特に、電子媒体に加えて紙媒体の提出を求めることのないよう指導していく。また、個人情報の取扱については、要領上で統一を図っていきたい。

(7) について

発注者側の通信環境が整っていないことは承知している。現在、政府全体でガバメントネットワークへ移行する取組を行っており、今後通信環境は大幅に改善されるものと期待している。また Web 会議の効率的な進め方については、優良事例等を各局と共有しながら適切に進めたいと考えている。

3 意見交換（【事】：事業協会，【農】：農林水産省）

(1) 適切な契約変更について

（継続要望の必要性）

【事】 契約変更に関しては、改善と悪化を繰り返す傾向にあり、当面継続要望を行っていく必

要を感じている。

【農】 現場への指導を継続して行っていく考えである。



松浦幹事長

（予算の制約）

【事】 契約変更を適切

に行えない理由として、予算不足や予算繰越が困難を上げる事業所も見受けられるが、実際にそのようなことこともあるのか。

【農】 本来あってはならないことと理解している。当然予算の制約はあるが、契約変更も想定しつつ、計画的な予算執行を指導していきたい。また、別件発注などの対応も指導していく。

【事】 予算の根拠なしに追加作業を求める担当者もいる。意識の改善が必要ではないか。

【農】 担当者の意識改善も重要と考えている。

（実施設計段階における基本設計の見直し）

【事】 実施設計段階において、基本設計の見直しが必要な場合がある。基本設計の見直しを追加で行った場合もその費用を計上いただきたい。

【農】 そのとおりであり、引き続き指導をしていく。



(入札時の提案を履行する場合の費用)

【事】 仕様書には記載されていない作業ではあるが、本来必要なものを提案した場合、その費用を支払うべきではないか。

【農】 もしそうであれば発注に問題あると考えられる。その取扱については確認して連絡する。

(2) Web 会議の活用について

【事】 打合せが Web 会議で行われるようになり、効率的であろうと思うので、この流れを止めないようお願いしたい。

【農】 Web のできるものは Web で行う方向になっている。また、Web 検査のマニュアル作成も進めている。その流れは変わらないと考える。

【事】 Web 会議の進め方について、顔を映すことや、発言時の名前を言うなど、マナー面の指導もされているのか。

【農】 他省庁との会議も含めて、各種会議の Web 化が進んでおり、職員もだいぶ慣れてきたと考えている。

【事】 出先事業所との Web 会議では、誰が話しているかわからない、また画像も黒いままということがある。

【事】 今後通信環境面は整ってくると思うが、リテラシーに関しても、研修等も交えながら対応のできる人を育てていきたい。

(3) 業務の円滑な遂行について

【事】 過年度業務成果への過度の問合せについてご相談した経緯があったが、最近もこうした事案が散見されている。

【農】 再度周知徹底したい。

(4) 照査について

【事】 照査報告の様式については、先ほど話があったように農水省で準備されているという理解でよいか。

【農】 現在、過年度の照査報告書を収集し、それらを基に検討を進めている。

【事】 昨年「赤黄チェック」の試行を行う旨の話があったが、試行は行われたのか。

【農】 昨年度、北陸農政局で数件行ったが、その評価については意見が分かれるところであり、実施の要否も含めて検討をしている。

(5) CM 及び PPP について

【事】 今後の展開についてお聞かせ願いたい。

【農】 用地交渉や工事監督など現場技術業務の拡充というかたちで進めているが、今後の進め方については未だ十分に描けていない。

【農】 今年度、事業促進型の現場技術業務の発注したところであるが、その中で調整対象とする工事が受注できないところもあり、不調となってケースもあるので、そうした課題の検討も進めている。